

第2学年3組 技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

日 時 平成30年6月22日(金)4限

1. 題材名

袋の展開と製作を通して構成を知り、自分の作品に生かせる工夫を見い出そう

2. 題材について

生徒の身の回りにある布という素材に注目してみると、生活のさまざまな所で使われている。布は生徒にとって身近な存在ではあるが、事前アンケートでは布を用いた製品の作り方を覚えている生徒は62%、布製品を見て工夫してあるな、すごいなと思ったことがある生徒は30%に過ぎない。布を使って衣生活や住生活に関わる物の製作に挑戦し、自分や家族の生活を豊かにするための製作の学習を通して自分で段取りをたてて作業する力を身につけ、完成した時の喜びを実感させたい。また製作物を完成させるだけでなく、生活を豊かにするための工夫を考え、実生活で活用し、より良く改善していける実践的態度を育成していきたい。

生徒は1年時に基本題材として座布団の製作に取り組んでいる。ただ9割の生徒がミシンの操作においてつまづいた経験があり、中にはとても苦手意識の強い生徒もいる。製作活動は個人で作品を作っていたが、班で作業内容を確認したり、教え合ったりすることで、協力して個の力を伸ばし、全員が座布団を完成することができた。共通教材なので、全員が同じ製作方法で取り組んだが、最後に自分らしい作品にするために、ワッペン、ボタン、レース、スパンコール、毛糸などを使って、工夫する楽しさを味わうことが出来た。

2年生で応用題材として自分や家族の生活に必要な物や、あると便利な物など生活を豊かにする物を考えて、自分で決めた作品製作に取り組む。基本題材に取り組んだ学習から約1年間あいっているため、布製品の構成を忘れていた生徒も多い。袋の展開、製作を通して基本的な知識を教え、構成・工夫について考えさせるために本題材を設定した。ミシンの代わりにホッチキスを使い、簡易的に袋を製作する課題に取り組むことで、製作過程の基本的な知識を理解させたい。そしてこれから自分が製作する作品に生かせる工夫を見出し、活用させたい。また生徒がお互い関わりあって学習内容を確認し合い、協力して作品を製作することを通して学び合う場面も設定した。

3. 題材の指導計画

(1) 題材の目標

- ・製作過程の基本的な知識に必要な製作の用語、縫い方について理解する。【知識・理解】
- ・自分や家族の生活を豊かにするために、作品に工夫を見い出そうとしている。【工夫・創造】

4 単元の評価規準

生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
衣生活の工夫に関心を持ち、布を用いたものの製作に取り組み、衣生活を豊かにするために実践しようとしている。	衣生活の工夫について課題を見つけ、その解決を目指して、自分なりの工夫を創造し、説明できる。	衣生活の工夫に関する基礎的・基本的な技術を用いて布製品を製作できる。	衣生活の工夫に関する基礎的・基本的な知識を説明できる。

5 指導と評価の計画(全7時間)

	ねらい	評価基準			
		関心・意欲・態度	創意・工夫	技能	知識・理解
1	製作物を決めて計画を立てる。	生活を豊かにする作品を計画しようとしている。	デザインを描き、完成イメージを持つ。		製作過程の見通しが持てる。
2 (本時)	布の構成の仕組みを知り、自分の作品に生かせる工夫を見出す。		自分の作品に生かせる工夫を見出す。		布の構成の仕組みがわかる。
3	自分の計画や説明書に沿って製作する。4時間以降は夏休みの課題で完成させる。			自分の計画や説明書通りに製作する。	
4					
5					
6					
7	製作を振り返る。	生活を豊かにする作品となったかを個人で振り返る。班で気づいた点を話し合う。			友達の商品に見られる製作の工夫を知る。

6 本時の学習指導

①本時の目標

袋の展開と製作を通して、自分の作品に生かせる工夫を見つける

【工夫・創造】

②展開

	教師の説明 課題提示	主な発問(●)と生徒の反応(・) 予想されるつまづき(▲)	教師の支援(・)と評価(※)
教える 15分	1 前時の学習を振り返る。	●生活を豊かにするものの製作として、バッグやポーチの計画を立てている生徒がいるので、袋を作る仕組みについて考えてみよう。	・既製品の巾着袋を呈示する。
	【学習課題】袋をほどいて、その仕組みと工夫を知ろう。		
考えさせる 30分	2 説明・作業(15分) ①(裏)から縫って(表)にひっくり返してある。 ②(三)つ折りをしてひもを通して ③袋の(底)にミシン縫いはしていない。 ④縫い始めと縫い終わりは(返し)縫い。 ⑤布端とミシン線の間に1cm程度の(縫いしろ)をとる。 ⑥布端に(ジグザグ)ミシンがかけ てある。	●ひもを通す袋口の部分はどんな仕組みで縫ってあるか、見てみよう。 ▲1年生で座布団を製作した授業で学習した言葉を忘れてる。	・ポイントになる言葉を()で抜き、スライドに表示する。 ・教科書P171の弁当袋を参考にさせる。 ・ポイントの言葉を思い出し、座布団の構成と同じことに気づかせる。
	【理解確認問題】巾着袋を参考に、A4ノートが入る手さげ袋を作ってみよう。		
考えさせる 30分	3 理解確認(15分) ⑦袋口は三つ折りにして、ひもをはさみこむ。	●巾着袋の①②③⑤を参考に作ってみよう。 ▲表からホッチキスを留める。 ▲布端にひもをつける。	・ミシンの代わりに接着芯をホッチキスで裏から留める。 ・ひもは予め作っておく。 ・ひものつけ方を伝える。 ・完成後、黒板に掲示。
	【理解深化問題】弁当箱など厚みのある物を入れるための工夫として、どのように縫うと良いかを考えよう。		
自己評価 5分	⑧まちをつくる。	●どのように縫えば、立体的になるか、班で意見を出そう。 ●手提げ袋をもう一度裏にひっくり返し、教科書P162にヒントを探して製作しよう。	・まちの入った手提げ袋の見本を見せる。 ・底に三角を作り、三角の端から数cmの所を留める。 ・平面的な袋から立体的な袋になることを伝える。
	5 自己評価(5分) 6 後片付け	●今日の授業でわかったことや、①～⑧の工夫で、自分の作品に生かせることやもっと知りたいことを書こう。 ●布、袋を班で片付けよう。	※自分の作品説明書や教科書を参考にしながら見つけられたか。 【工夫・創造】 ・優秀班、MVPを伝える。